

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520108

研究課題名(和文)「聖廟文学」の思想史的研究 平安朝文人の天神信仰

研究課題名(英文)A Religious Study on `Seibyou Literature`-The Tenjin Faith of Heian Scholars

研究代表者

吉原 浩人 (YOSHIHARA, HIROTO)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：80230796

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、菅原道真の霊を天神として祀る宗教施設、すなわち安楽寺・北野社・吉祥院の三聖廟に捧げられた詩序・願文類を「聖廟文学」と呼び、その思想・文学的背景の解明を試みた。聖廟＝神となった菅原道真に対する言葉の捧げ物には、白居易の詩文の影響が強いことを証明し、平安朝文人貴族の天神信仰の実態を明らかにすることができた。研究期間中に、中国・韓国・台湾・日本において、32回の研究発表・招待講演を行い、12本の論文・訳註を公表した。2014年11月23日には、国際シンポジウム「天神信仰と菅原道真」を開催し、アメリカ・中国から基調講演者を招き、天神信仰の研究結果を一般にも公開した。

研究成果の概要(英文)：In this study, the poetry and articles in the worship of religion facilities ,namely, Anraku Temple, Kitano Temple, and Kisshoin Temple, which enshrined Michizane Sugawara as the Tenjin , are referred to as the "Seibyou Literature". This study showed and generated his acutal thought and literary background. This study proved that the dictions used to praise Sugawara Michizane have been greatly influenced by Bai Juyi 's poetic style. In addition, it has helped clarified the Heian Aristocracy Scholars ' actual state of faith in Tenjin. During the study, I have attended 32 academical meetings in China, Korea, Japan and Taiwan. Furthermore, I have posted and published 12 papers and annoated translations. In November 23, 2014, I attended an international academic meeting entitled, `Tenjin Faith and Michizane Sugawara` . During the international academic meeting, I invited a number of scholars from China, as well as the United Stated, and shared the result of this research publically.

研究分野：人文学

キーワード：聖廟文学 天神信仰 菅原道真 大江匡房 慶滋保胤 菅原文時 国際研究者交流 古典註釈

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成18～21年度科研費(C)「大江匡房の思想研究」を受けて開始された。大江匡房(1041～1111)は、平安朝院政期最大の思想家・文筆家・政治家であるが、全集が刊行されておらず、難解な作品群の思想・文学の背景を解明しなければならない。その過程で、文筆活動の淵源は、撰関期の文人貴族の漢詩文にあることに気付いた。さらに平安朝の文人は、ある特定の法会を作文する際、できるだけ白居易詩文の語彙を多く使用するという規則があったことを証明した。白居易と同様、文人の精神的支柱となったのが、天神として祀られた菅原道真である。神と人との関係を、当時の文人がどのように捉えていたか解明する必要があった。

2. 研究の目的

本研究では、「聖廟」すなわち菅原道真の霊を天神として祀る宗教施設 安楽寺・北野社・吉祥院 において、道真を祀るために作成された漢詩文の分析を行う。吉原はこれを「聖廟文学」と称し、その思想・文学的背景の闡明を試み、撰関期・院政期文人貴族の思想・宗教・文学的背景をも探る。

3. 研究の方法

撰関期・院政期に聖廟に捧げられた詩文は、17篇遺されている。これら作品の、本文校訂・読み下し・現代語訳・構造分析・註釈・解説・文献一覧からなる詳細な註釈を作成する。ただし期間中にすべてを完成するのは不可能なため、主要作品から着手する。また、菅原道真を天神として祀る思想の背景を明らかにするため、神の観念、「文」の観念、日宋関係、宗教作品、寺社縁起など、撰関期・院政期の思想・宗教・文学・歴史とその背景を総合的に検討する。

4. 研究成果

下記内容に関連する論文11編・図書1冊を公刊し、研究発表・講演を、中国・韓国・台湾・

日本の各地で計32回行い、国内外で評価された。

- (1)撰関期には、白居易は文殊菩薩もしくは文曲星の化身、すなわち学問の神として祀られ、文人の精神的基盤となっていた。孔子を祀る釋奠には孔子門下の画像が掲げられていたが、長寿をことほぐ尚齒会には白居易の画像が掲げられ、しかも白居易が描かせた障子絵そのものが伝来したと信じられていた。
- (2)日本で唯一現存する平安時代の障子絵「山水屏風」(国宝・京都国立博物館蔵)は、廬山香炉峰下の白居易草堂と鄱陽湖を描いたものであった。
- (3)御霊神であった天神を「文道の神」として祀り喧伝したのは、菅原文時門下の勸学会結衆であった。その際には、釋奠の儀礼を基本とし、白居易や非業の死を遂げた伍子胥などのイメージも重ねられていた。
- (4)菅原道真以前に、日本において学問の神・文章の神は存在せず、また平安時代を通じて、他の儒者を神として祀ることはなかった。
- (5)「文道」の語は中国に用例がほとんどなく、白居易「賦賦」を出典とはしているものの、日本の概念として慶滋保胤・大江匡衡ら勸学会結衆によって広められた。
- (6)「文道」という場合の「道」とは、ある集団において確立した専門的な方法のことで、それを極めることで技術ばかりでなく人格までも陶冶することを目的とし、進むべき道筋を示すものである。これは日本の平安から鎌倉・室町期にかけて順次確立した概念で、天神＝菅原道真に対して使用された「文道」の語がそのはじまりである。
- (7)「神道」の語義について、津田左右吉・黒田俊雄はじめ諸説あったが、「神道」の原義に立ち返り、『日本書紀』が参照

- した可能性のある中国の文献を精査し、かつ院政期までの文献にみられる「神道」の語の用例を分析し、その意味を確定させた。
- (8)冥界の支配者とされる泰山府君信仰について、大江匡房作品を含む平安朝日本漢文学と、『今昔物語集』における用例を精査し、その展開について説明を試みた。
- (9)菅原文時は、天神信仰を宣揚し、宋文化を積極的に受容した。その門下生である、源為憲・慶滋保胤・大江匡衡・大江以言・紀齊名らは、勸学会を主導している。すでに佐藤道生氏によって明らかにされているように、句題詩・詩序は菅原文時によって編み出されたものであり、漢詩文の作文においては造語や新概念を使用するなど、平安時代の日本文化を大きく転換させた可能性が高い。
- (10)唐・般若三蔵訳『大乘本生心地観経』は、訳経に日本僧靈仙三蔵が参加したものであるが、ここに見られる孝思想が平安文化に大きく影響を与え、菅原文時の願文にも積極的に受容された。
- (11)国際交流基金の重点支援対象機関である浙江工商大学東亜文化研究院と、吉原が所長を勤める早稲田大学日本宗教文化研究所は、国際学术交流協定を締結し、研究期間中に4回の国際シンポジウムを共同主催した。このシンポジウムには、途中から韓国・蔚山大学校日本語日本文化学科と、スリランカ・キャラニア大学人文学部も加わった。
- (12)本研究の締めくくりとして、2014年11月23日、本研究と日本宗教文化研究所との共催で、国際シンポジウム「天神信仰と菅原道真」を開催し、アメリカ・中国から基調講演者2名を招き、6名の一般発表とともに、天神信仰の研究成果を一般に公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

吉原浩人「日本古代における「神道」の語の受容と展開」ルチア・ドルチェ、三橋正編『「神仏習合」再考』勉誠出版 pp167-211 2013 査読無

吉原浩人「霊像の生身表現の淵源とその展開—優填王思慕像の東遷伝承と善光寺縁起・絵伝」徳田和夫編『中世の寺社縁起と参詣』竹林舎 pp455-484 2013 査読無

吉原浩人「「文道の大祖」考 学問神としての天神の淵源」河野貴美子・Wiebke DEN ECKE編『日本における「文」と「ブンガク」』（『アジア遊学』162）勉誠出版 pp118-132 2013 査読無

吉原浩人「大江匡衡「北野天神供御幣并種種物文」訳註 中原長国の代作による末期の病気平癒祈願」『多元文化』第2号 pp32-58 2013 査読無

吉原浩人「慶滋保胤「賽管丞相廟願文」訳註『法華経』作文会の祈請」伊藤瑞叡博士古稀記念論文集刊行会編『法華仏教と関係諸文化の研究 伊藤瑞叡博士古稀記念論文集』山喜房佛書林 pp933-941 2013 査読無

吉原浩人「高階积善劝学会詩序考 白居易詩文与天台教学的受容」(中国語) 隼雪艳・高松寿夫編『白居易与日本古代文学』北京大学出版社 pp190-214 2012 査読無

吉原浩人「平安朝漢文学における泰山・泰山府君の形象」小峯和明編『東アジアの今昔物語集 翻訳・変成・予言』勉誠出版 pp340-367 2012 査読無

吉原浩人「慶滋保胤の裔然入宋餞別詩序 白居易・元稹詩文との交響—」河野貴美子・王勇編『東アジアの漢籍遺産 奈良を中心として』勉誠出版 pp271-302 2012 査読無

吉原浩人「院政期の思想 江家における累葉儒家意識と系譜の捏造」佐藤弘夫編

『日本思想史講座 1 古代』 ベリかん社
pp323-356 2012 査読無

吉原浩人「慶滋保胤六波羅蜜寺供花会詩序考 勸学会詩序との関連において」『多元文化』第1号 pp33-50 2012 査読無

吉原浩人「慶滋保胤六波羅蜜寺供花会詩序 訳註」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第57輯第1分冊 pp53-67 2012 査読無

吉原浩人「神として祀られる白居易 平安朝文人貴族の精神的基盤」河野貴美子・張哲俊編『東アジア世界と中国文化 文学・思想にみる伝播と再創』勉誠出版 pp95-124 2012 査読無

〔学会発表〕(計 32 件)

吉原浩人「裔然が宋に贈ったもの・贈られたもの」国際シンポジウム「東アジア文化交流 人と物の流通を中心に」於中国温州医科大学 2015.3.20 招待講演

吉原浩人「新出大須文庫蔵『心性罪福因縁集』院政期古写本断簡の復元」2014年度第二回真福寺大須文庫調査研究会 於名古屋大学 2014.12.21

吉原浩人「藤原敦基吉祥院聖廟詩序考 神明の感応と朗詠」科研費基盤研究(C)「聖廟文学」の思想 平安朝文人貴族の天神信仰」主催 国際シンポジウム「天神信仰と菅原道真」於早稲田大学 2014.11.23

吉原浩人「新出真福寺大須文庫蔵『心性罪福因縁集』院政期古写本考」『中国社会科学論壇2014・歴史学 第五届中国古文献与传统文化国際學術研討会』於中国杭州西湖国学館 2014.10.27

吉原浩人「寛治六年吉祥院聖廟詩筵の場 藤原敦基の詩序と藤原宗忠の日記から」『仏教と文学 日本金剛寺仏教典籍調査研究成果報告国際學術シンポジウム』於中国人民大学国学館 2014.10.26

吉原浩人「『大乘生心地観経』考 長安における訳経と日本文化への影響」『古代長安と東アジア文化交流』學術シンポジウ

ム 於中国西安賓館 2014.8.24 招待講演
吉原浩人「勸学会の思想と白居易」2014年度 日本語教育日本研究国際學術研討会 於中国広州市広東外語外貿大学 2014.8.20 招待講演

吉原浩人「善光寺信仰と聖徳太子信仰」同上 2014.8.20 招待講演

吉原浩人「世界最早的仏像流伝 從中日兩國間的伝承説起)」北京大学歴史学系「學術講座」於中国北京大学 2014.4.18 招待講演

吉原浩人「天皇崩後の「聖霊」のゆくえ 平安時代の願文等に見る表現から」国際シンポジウム「東アジアの靈魂観と文化交流」於韓国蔚山大学校 2014.3.21

吉原浩人「杭州西湖の白居易と平安時代の文人」中国人民大学外国語学院日語系建系20周年紀念學術講座 於中国人民大学 2013.11.25 招待講演

吉原浩人「平安時代における仏教と孝思想 為謙徳公報恩修善願文を読む」東アジアにおける孝の文化」国際學術シンポジウム 於中国清華大学 2013.11.2

吉原浩人「海彼より来たる仏・神・王 中国・朝鮮・日本の伝承とその展開」(基調講演・招待講演) 第1回中・日・韓比較文化研究国際學術シンポジウム 於中国瀋陽航空航天大学 2013.10.12 招待講演

吉原浩人「錢塘湖孤山寺の元稹・白居易と平安朝の文人」『西湖のイメージ: 東アジア名勝の誕生・流伝・移動』国際學術シンポジウム 於中国杭州市華北飯店 2013.9.15 招待講演

吉原浩人「善光寺信仰と磯長聖徳太子廟」伝承文学研究会大会 長野県短期大学 2013.9.8 招待講演

吉原浩人「大江匡房「円宗寺五大堂願文」考 平安時代後期の五大明王信仰」第2回中国密教国際學術シンポジウム 於中国紹興県龍華寺 2013.6.28 招待講演

吉原浩人「御霊神与学問神 对于菅原道真的信仰之両面性」 於陝西師範大学宗教研究中心「宗教学論壇」 於中国陝西師範大学 2013.4.12 招待講演

吉原浩人「世界最初之佛像与日本最初之佛像 生身表現之变遷」 於陝西師範大学宗教研究中心「宗教学論壇」 於中国陝西師範大学 2013.4.11 招待講演

吉原浩人「水中より出現する霊像 中国・朝鮮・日本の伝承とその展開」 国際シンポジウム「中世の禅宗文化とその周辺」 於知恩院和順会館 2013.3.15

吉原浩人「大江匡衡「北野天神供御幣并種種物文」考 菅原道真を「文道之大祖、風月之本主」と表現する思想史的背景」 「超越民族主義 共建和諧亞州」国際シンポジウム 於広東外語外貿大学 2012.12.8 招待講演

21吉原浩人「「天神」から「文道之祖」へ 菅原道真に対する信仰の変遷」 華南師範大学文学学院學術講座 於中国華南師範大学 2012.12.7 招待講演

22吉原浩人「『熊野觀心十界曼荼羅』の世界觀」 華南師範大学外国語言文化学院學術講座 於中国華南師範大学 2012.12.6 招待講演

23吉原浩人「“文道之神”的誕生 学問之神菅原道真的思想史意义」(中国語) 北京論壇 於中国北京大学 2012.11.4 招待講演

24吉原浩人「撰関期の天神信仰 大江以言吉祥院聖廟詩序の方法」 シンポジウム「東アジアにおける宗教と文化」 於台湾国立政治大学 2012.10.6

25吉原浩人「『宋史』日本伝所載裔然上表文再考」 「東アジア文学及び文化交流」国際シンポジウム 於中国南開大学 2012.9.8 招待講演

26吉原浩人「天神信仰史上における源相規安楽寺聖廟詩序」 和漢比較文学会第五回特別例会 於国立台湾大学文学学院 2012.9.3

27吉原浩人「「文道の祖」としての菅原道真 慶滋保胤「賽菅丞相廟願文」考」 ワークショップ「日本における「文」の世界・伝統と将来」 於早稲田大学 2012.7.21

28吉原浩人「聖徳太子南岳慧思後身説と衡山取経譚の諸問題」 「古典籍にみる高僧伝」国際シンポジウム 於中国黄山国際大酒店 2012.1.14

29吉原浩人「磯長聖徳太子廟の「廟岨偈」をめぐって」 水門の会東京例会「渡辺信和先生に捧ぐ 仏教文学研究の軌跡」 於大東文化会館 2012.1.8

30吉原浩人「日本古代における「神道」「神祇」の語の受容と展開」 日本思想史学会大会2011年度大会 於学習院大学 2011.10.29

31吉原浩人「慶滋保胤六波羅蜜寺供花会詩序考」 和漢比較文学会第4回特別研究発表会 於中国西北大学 2011.9.3

32吉原浩人「奈良時代における「神祇」の語の受容と展開」 「東アジアの漢籍遺産 奈良を中心として」国際シンポジウム 於中国杭州華北飯店 2011.7.29

〔図書〕(計1件)

林雅彦編・吉原浩人解説『第3回絵解きフェスティバルin善光寺大本願 絵解き台本集』 全124頁 第3回絵解きフェスティバルin善光寺大本願実行委員会 2014

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉原 浩人 (YOSHIHARA, Hiroto)
早稲田大学・文学学院・教授
研究者番号: 80230796